

日 時	行 事	説 明
1日 午前5時	わかみずぎ 若水の儀	宮司が自ら瑞垣内の神井より若水を汲上げ、竹筒に満たして第一本宮以下各本宮にお供える儀式である。若水は邪気を除き、若返り水の信仰がある。
1日 午前6時	がんとんさい 元旦祭	初日の出の時刻に、国の隆昌と国民の弥栄、並に五穀豊穰・無事息災を祈る祭典にて全神職参籠して宮司以下祭員は衣冠を着して奉仕する。
3日 午前8時	げんしさい 元始祭	年のはじめに当り、皇位の元始を祝うもので宮中三殿にて行なわれる天皇の親祭で、全国の神社では国の隆昌と国民の繁栄を祈る祭典である。
4日 午後1時	とうかしんじ 踏歌神事	古くは朝廷で行なわれた新年の行事で、当社に伝わる特殊神事の一つ。小餅を袋に入れた「大黒さん」と梅の若枝を持った「えびすさん」とが互いに呼応して庭上を歩み、その後昇殿して小餅を神前に献じ、次いで神楽女によって、当社伝承の「白拍子」「熊野舞」が手振りも優雅に奏される。
7日 午前11時	はつうさいならびあおうましんじ 初卯祭並白馬神事 しょうわてんのうりょうほうはいしき 昭和天皇陵遙拜式	初卯祭は、当社の御鎮座日が、卯年の卯月の卯日であると云う社伝に因み、正月は「初卯祭」、御鎮座記念の五月は「卯之葉神事」、他の月は「卯之日祭」と称して毎月初の卯日に祭典を執行している重要な祭りである。「兎」を神使、「卯の花」を松と共に神木としている所以でもある。 白馬神事は、特殊神事で神馬「白雪号」が各本宮を巡拝した後、境内を駆け廻る神事です。正月に白馬を見ると邪気を払うと言い伝えられている。当社の神馬は、純血種道産子馬で赤い目をもつ珍しい白馬である。白馬神事に引続いて、昭和天皇陵遙拜式が執り行なわれる。
9日 午前9時 ～ 10日 午後6時 (祭典は両日10時行)	いちえびす・だいこくまつり 市戎・大国祭 (えべっさん)	境内南苑に鎮座し「市」の守神である市戎大国社は住吉の戎神で、「住吉のえべっさん」として親しまれている。神賑行事として祈禱木の奉焼などが行われ、終日この年の福を祈る祈禱者や福笹・吉兆を受ける人々で賑わう。
12日 午前11時	わかみややはちまんぐうれいさい 若宮八幡宮例祭 (湯立神事)	摂社の若宮八幡宮の祭りで、神前に四つの大釜を据え、その社前でが両手に釜を持った巫女が浪速神楽の笛と太鼓のはやしに合せて舞う「湯神楽」を奏して、その年を占う祭である。
13日 午前10時	みけちしんじ 御結鎮神事 (お弓始め)	神功皇后の故事に因み、邪気退散・天下泰平を祈願して行う奉射の神事で、一切の不祥を祓い、福を招くと云われ、「お弓神事」「弓始神事」とも云う。古儀にのっとる十番奉射行事は大阪府弓道連盟の方が奉仕される。
15日 午前9時 ～ 午後2時	住吉とんど祭 (左義長)	小正月(15日)にあたり、住吉大社に納められた古神符・古御守や正月のしめ縄等の飾物を篝火によって焼納する神事である。この火で餅を焼いたり、煙を浴びると無病息災になると伝えられ、多くの人々で賑わう。
15日 午前10時	じゅうごにちさい 十五日祭 しんねんけんえいさい 新年献詠祭	十五日祭は毎月の恒例祭。古来より和歌の神として人々に尊崇されてきた住吉大社では年に三度の献詠行事があるが、この祭典では新年に当り、短歌を一般より募集し、入選歌を冷泉流の披講によって神前に奉告する祭である。
20日 午前6時 ～ 午後4時	はつちまつ 初辰まいり (二の辰)	楠珞社、種貸社、大歳社、浅沢社の四社を毎月初の辰日に巡拝して、商売発達・家内安全・身体健全を「月参り祈願」する信仰があり、稲種を稲穂から神米へと交換してゆく「みのりまいり」も盛んで、多くの参拝者や露店で賑わう。
20日 午前10時	かいじょうあんぜん 海上安全 こうつうあんぜんきんぎんさい 交通安全祈願祭	7月20日の「海の記念日」にちなむ毎月の恒例祭で、住吉大神の御神徳である海上安全、陸上の交通安全を祈願する。